



第10回 「おたる案内人」マイスター 検定試験問題

2018年3月18日

小樽観光大学校

*合格発表は下記のホームページでご確認できます。
*URL:<http://www.otaru-kd.com>

各設問で選択問題は番号で、また記述問題は決められた字数で記入しなさい。
(制限時間90分)

問1

小樽のまちづくり運動は実社会にどのような影響を与えてきたか。事実と異なるのは次のどれでしょうか。

1. 経済的に基幹産業となる観光を牽引してきた
2. 政治的にまちづくりや観光の条例が蓄積されてきた
3. 文化的に歴史的建造物再利用を現在進行形で推進してきた
4. 生活的に小樽で暮らすライフスタイルを提案してきた

問2

「観光されるほど落ちぶれていない」という偏見はどんな考え方から派生したのでしょうか。

1. 観光ボランティア主義
2. 観光文化主義
3. 観光民主主義
4. 観光植民地主義

問3

江戸時代の宿場町の街並みを残す先導的な役割を担い「売らない、貸さない、壊さない」を住民自治で約束した地域は、次のどれでしょうか。

1. 長崎
2. 倉敷
3. 馬籠
4. 妻籠

問4

小樽の名所観光の先駆けとされるオタモイ龍宮閣がつくられたのはいつでしょうか。

1. 明治中期
2. 明治後期
3. 大正期
4. 昭和初期

問5

小樽運河保存運動と小樽観光の関係で事実と異なるのは、次のどれでしょうか。

1. 小樽運河保存運動は水辺を残し周辺をスクラップ&ビルドすることを提唱
2. 小樽運河保存運動は運河を残し綺麗にして観光の可能性を提唱
3. 小樽運河保存運動は運河と市街地を六車線道路で分断することに反対
4. 小樽運河保存運動は運河ばかりでなく市内の歴史的建造物再利用を提唱

問6

小樽運河保存運動が主張していなかったのは、次のどれでしょうか。

1. 市民主体の公共事業を主張
2. 新幹線延伸を想定した道路建設を主張
3. 地域の独自性を尊重した公共事業を主張
4. 歴史的環境が新たな経済的資源になることを主張

問7

小樽運河保存運動以後のまちづくり団体は今日までどのくらい誕生したのでしょうか。

1. およそ10団体
2. およそ80団体
3. およそ120団体
4. およそ150団体

問8

小樽観光がまちづくり観光といわれる所以で事実と異なるのは、次のどれでしょうか。

1. 静態保存から進行形の動態保存を推進するまちづくり運動
2. 志に根ざしたまちづくり運動が観光資源を発掘
3. 観光マーケティングにのっとりまちづくり運動を推進
4. まちづくり運動の多くが主張する歴史的建造物再利用が小樽観光の牽引役となった

問9

平成30年1月末現在の小樽市の人口は次のどれでしょうか。

1. 123,512人
2. 119,521人
3. 118,751人
4. 111,521人

問10

平成30年2月1日現在の札幌市の人口は次のどれでしょうか。

1. 1,962,987人
2. 1,943,265人
3. 1,933,520人
4. 1,899,520人

問11

小樽市の観光入込客数で過去最大の数値は次のどれでしょうか。

1. 約985万人
2. 約973万人
3. 約945万人
4. 約912万人

問12

問11の入込客数を記録した年度は次のどれでしょうか。

1. 2000年
2. 1999年
3. 1998年
4. 1997年

問13

小樽雪あかりの路の第1回目は次のどれでしょうか。

1. 1999年2月
2. 1999年1月
3. 1998年2月
4. 1999年1月

問14

第20回小樽雪あかりの路のメイン会場は何カ所だったでしょうか。次の中から選びなさい。

1. 1ヶ所
2. 2ヶ所
3. 3ヶ所
4. 4ヶ所

問15

第20回小樽雪あかりの路の準メイン会場は何ヶ所だったでしょうか。次の中から選びなさい。

1. 1ヶ所
2. 2ヶ所
3. 3ヶ所
4. 4ヶ所

問16

第20回小樽雪あかりの路ではメイン会場が1ヶ所増えました。それは次のどれでしょうか。

1. 天狗山会場
2. 小樽芸術村会場
3. 手宮線会場
4. 朝里川温泉会場

問17

浅草通りにある建物の説明です。該当するものを選びなさい。

「石造2階地下1階 一部3階建 市歴史的建造物。玄関や窓まわりの石組みデザイン、コーナ一部分や窓の間隔の変化などに特徴がある。大正時代に増築、1996年(平成8)に一部を改装。横から見た壁のデザインは小樽でも珍しいイタリアルネッサンス様式で、正面はほぼ創建時の姿である。」

1. 旧三井物産小樽支店
2. 旧北海道銀行本店
3. 旧第一銀行小樽支店
4. 小樽郵便局

問18

次の市指定歴史的建造物のなかで、小樽市都市景観賞を受賞していないのはどれでしょうか。

1. 旧北海道銀行本店
2. 旧磯野商店倉庫
3. 北海製罐(株)小樽工場・倉庫
4. 旧安田銀行小樽支店

問19

小樽郵便局を背に港側を向いてしてガイドしています。間違っているのは次のどれでしょうか。

1. 向い側をご覧ください。旧北海道拓殖銀行小樽支店で現在は似鳥美術館となっています。大正12年の創建で、小林多喜二が勤務していたことでも知られています。
2. 右手向かい側の建物は旧第一銀行小樽支店で大正13年の創建です。当初は道路側2面に大きなオーダーが立てられ玄関には彫刻も施されていました。
3. 右斜め向かいには三菱銀行小樽支店で大正11年の創建です。現在は小樽運河ターミナルとして活用されています。1階にはショップがあり、観光の休憩場所としてもご利用いただけます。
4. 左手の向かい側に重厚な建物が見えます。これは旧三井銀行小樽支店で昭和2年の創建です。北海道指定有形文化財となっており、館内を見学することができますので、ぜひご覧ください。

問20

旧安田銀行前でガイドしています。間違っているのは次のどれでしょうか。

1. この銀行建築は中央通拡幅工事のため、平成13年に曳家工法により現在地に移動しました。
2. 安田銀行の手宮側隣りの建物は銀行建築で、創建時は中越銀行でした。当時は外国貿易での資金決済をするための外国為替専門銀行として営業していました。
3. 中央通の右手突き当りがJR小樽駅です。そこから港の大型船を望む景観は観光客の皆様にも大変好評で、小樽市都市景観賞も受賞しています。
4. 小樽は明治期から海岸の埋め立て工事で平地を造成していきました。埋め立て前の海岸線は、今、私達が立っているところだといわれております。

記述問題

次の各設問に200字前後の文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

1. あなた自身の「小樽がこういう観光地になったらいいのに」と思うビジョンと、ビジョンを示す一つの事例案を具体的に書きなさい。

(まちづくり観光論より出題)

2. 小樽雪あかりの路におけるボランティアの現状と課題を書きなさい。

(観光資源論より出題)

総合記述問題

次の設問に600字前後(全体で)の文章で述べなさい(簡条書きは不可)

現在、小樽市は日本遺産認定に向けて動き出しています。日本遺産は地域に点在する遺産をストーリーにして活用発信することで、地域活性化や観光振興を図ることを目的としています。

単一の市町村内で完結する「地域型」を想定し、あなたが思う小樽の地域遺産をどのように観光に活かしていくかのストーリーを書きなさい。(タイトル必須)

また、そのストーリーを構成する地域遺産(具体的な名称)を別途明記し、その代表的な遺産2件の「ストーリーの中の位置づけ」を書きなさい。(江差町参照)

*但し、日本遺産「地域型」は国指定・選定の文化財を最低一つは盛り込むことが条件となる。

●小樽市の国指定文化財・史跡

・・・旧日本郵船(株)小樽支店・旧手宮鉄道施設・手宮洞窟・忍路環状列石

*ストーリーの例は下記の江差町、岐阜市、鎌倉市を参照。

<ストーリー例>

■江差の五月は江戸にもない ニシンの繁栄が息づく町・・・江差町(北海道)

<ストーリーの概要>

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいている。

●ストーリーを構成する遺産名の一例として

江差の町並み・旧中村家住宅・姥神大神宮・かもめ島の階段跡・江差商人の宴席跡・江差沖揚音頭・江差追分・三平汁・ニシン漬など

＜ストーリーの中の位置づけ＞・・・書き方の例

- ・江差沖揚音頭・・・江差繁栄の基となったニシン漁の様を現在に伝える民俗芸能。
- ・ニシン漬・・・豊富に獲れたニシンを用いた郷土料理。身欠きニシンと様々な野菜を麴とともに漬けたもの。

(参考：上記江差町の文字数で486字)

■「信長のおもてなし」が息づく戦国城下町・・・岐阜市

＜ストーリーの概要＞

戦国時代、岐阜城を拠点に天下統一を目指した織田信長。彼は戦いを進める一方、城内に「地上の楽園」と称される宮殿を建設、軍事施設である城に「魅せる」という独創性を加え、城下一帯を最高のおもてなし空間としてまとめあげる。

自然景観を活かした城内外の眺望や長良川での鵜飼観覧による接待。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしは、宣教師ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。信長が形作った城・町・川文化は城としての役割を終えた後も受け継がれ、現在の岐阜の町に息づいている。

●ストーリーを構成する遺産名・・・・・・・・

■「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～・・・鎌倉市

＜ストーリーの概要＞

鎌倉は、源頼朝によって幕府が開かれた後、急速に都市整備が進められ、まちの中心には鶴岡八幡宮、山には切通きりどおし、山裾には禅宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。

この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、近代には多くの別荘が建てられたが、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられてきた。

このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。

●ストーリーを構成する遺産名・・・・・・・・